

SSKW

巣立ちだより



— 目次 —

- ・シンフォニーの完成に寄せて … 1-2
- ・第9回愛のふれあいコンサート 報告 … 2
- ・相談支援事業所 野の花より … 3
- ・野の花② 精神障害者地域移行体制整備支援事業を受託して … 4-5
- ・巣立ち工房 夏の陶芸教室 … 5
- ・三鷹市精神障がい者地域自立支援事業 … 6-7
- ・当事者研究ミーティングがはじまりました … 7-8
- ・グループホーム：コーポもくれん 完成！ … 8

シンフォニーの完成に寄せて

巣立ち会理事長 田尾有樹子

9月1日から、予定通りシンフォニーの活動を開始することができた。

建物を建てるということは楽しみでもあるが、そこに至るまでは毎日、綱渡りの心境であった。東京都の建物検査、事業所検査、物件の引き渡し、引っ越しなど、スケジュール的にはかなりタイトなものだった。今でも部分的な不具合があり、建設業者との連絡は絶えない。また細かい建物の仕様や色など、自分で決めたはずなのに「こんなはずではなかった」と思



<シンフォニー>

うこともいろいろある。

ただ、とにかくスタートできた。開始後にあらためて利用者や職員の感想は聞いていない。

もちろん大きくなった分不自由になった点はあるが、それでも「前の方が良い」と言う人はいないと思っている。

最もうれしかったのは、隣人の方が「きれいな建物が建って、地域みんな喜んで」とおっしゃって下さったことである。調布の小島町では、私たちは新参者である。何とかこの地域の方たちと仲良く、ともに共存でき

るようになっていきたいと願っている。

しかし私たちの事業はそもそも、良い建物だからといって中身が良いとは決まらない。シンフォニーでは、事業としてルポゼとユースメンタルサポート COLOR を運営している。この二つの事業内容は、全国的にみても、地域の福祉事業所で行っている例はほとんどない。それだけに、他の地域や関係者・事業所にも、モデルとなりうるように展開していく必要がある。

巣立ち会の理念は「利用者のニーズに沿う」ことである。慢性高齢化した精神障害者だけでなく、壮年期に発症した疾患、そして若年期発

症の人たち、それぞれが支援を受けられず途方に暮れている現状が今の日本にはある。そうした方々に対する新たな支援を作り上げていく、その象徴がこのシンフォニーだと考えている。その意味で、これからも多くの人にここを知ってもらい、利用してもらいたいと思う。

これからも街に溶け込みながら、地域の人に役に立つ場所として活動を続けていきたいと願っている。皆様の今後のご理解とご協力をお願いする次第である。

お問い合わせ先：

〒182-0026 調布市小島町 2-55-4

電話番号 042-488-4436

Mail : repose@sudachikai.eco.to

☆

☆

第9回

愛のふれあいコンサート

ご来場まことにありがとうございました

2012年7月6日（金）、調布市文化会館たづくりくすのきホールにて、「巣立ち会 第9回 愛のふれあいコンサート」を開催いたしました。

例年通り調布市と調布市社会福祉協議会からご後援を頂きました。約

430名もの多くの方々にご来場頂き、調布市長の挨拶から始まったコンサートは第一部が繊細でいて力強く旋律を奏でる長富彩



<長富彩さん>

さんのピアノ演奏、第二部が心を和ませるトークを挟み、皆を驚かせる演出でアンコールまで大喝采だった大谷康子さんのヴァイオリン演奏でした。大谷さんはピアノ伴奏の榎本潤さんと共に会場の音楽愛好家を魅了していました。

毎年行われている「愛のふれあいコンサート」

も9回目を迎え、地域に愛されるイベントへと成長してきています。今後も地域の



<大谷康子さん、榎本潤さん>

皆様との『ふれあ

い』を大事に続けていけたらと思っています。

また、ご来場者の皆様から、367,846円のご寄付を頂きました。ご寄付頂いたお金は、より良い福祉の充実を目指し、巣立ち会の運営に充てさせていただきます。この場をお借りしまして、ご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

（渡邊）

相談支援事業所 野の花より

野の花は指定相談支援事業所として平成20年7月に東京都から指定を受け、主にこころの病を抱え、障害福祉サービスを利用する方を対象にサービス利用計画作成を行ってきました。これまで計画作成の対象となる方はごく限られており、東京都内でも取り扱い件数はとても少なかったのです。

今年度4月に、障害者自立支援法が改正され、相談支援の拡充が図られることになり、これまでと大きく変化することになりました。これまでの指定相談支援事業は市町村が指定を行う特定相談支援事業となり、対象となる方も、障害福祉サービスを利用する全ての方となりました。そして新たに地域移行・地域定着支援を行う一般相談支援事業が創設され、東京都が事業所を指定することとなりました。野の花は、この両者の事業を今年度も行ってまいります。

これまで野の花では、サービス利用計画作成を含めた相談支援を終結することはとても難しいと感じておりました。もちろんご自身の力でサービスの利用を調整し、さらに自立していくことが可能であればそれが一番望ましいのですが、一方でご本人のニーズに合ったサービスが継続して切れ目なく提供されていくためには相談支援を継続していくことが必要だと考えています。今回の法改正はそのような観点からも、大変喜ばしいことではありますが、対象がサービスを受ける全ての方となるため、この相談支援事業所も同じかと思いますが、野の花も同様にマンパワー不足であることは否めません。サービス等利用計画を作成するためには、ご本人と信頼関係を構築し、丁寧なアセ



メントを行うことから始まります。しかし、計画作成の依頼があれば期限までに書類を市区町村へ提出しなければ、利用者さんのサービス提供が遅れてしまうこともあり得ます。今後利用者さんが確実に増えていくと見込まれる中で、丁寧さと効率のよさの両立が課題でもあります。

また、巣立ち会として事業開始当初から行ってきた長期入院患者さんの退院支援がようやく今年度から自立支援法内のサービスとして位置付けられ、地域移行・地域定着支援となりました。

昨年度まで東京都退院促進コーディネート事業で支援を行ってきた患者さんをはじめ、新規の方も含め個別の契約に基づいて地域移行支援を継続して行っています。今後、多くの事業所が積極的に手を挙げて活動して下さることを期待しています。

今回の法改正に伴い事務的な流れや手続き等制度運用について現在も現場ではわからないことが度々生じています。その度に行政の皆様と相談しております。行政の皆様も制度利用の解釈に戸惑われており、その都度相談しながらお互いに理解を進めているところです。

今年度に入り、「相談支援」が脚光を浴びるようになり、相談支援専門員の専門性、相談支援のスキル、多様なネットワークを構築できているかどうか、相談支援事業所に対する皆様の期待も大きいかと思えます。サービス提供事業所の皆様と一緒に、利用者さん一人一人の希望する地域生活が実現し、継続できるように専門性を磨いていきたいと思っております。

（濱井）

～野の花 ②～

精神障害者地域移行体制整備 支援事業を受託して

平成22年7月から退院促進コーディネート事業を受託し、引き続き今年度も、精神障害者地域移行体制整備支援事業を受託することが出来ました。

この事業の目的は、精神科病院へ長期入院のために、地域での生活に不安を持ち、退院が可能な状況であるにもかかわらず、退院に踏み出せない方への働き掛けや退院を後押しする病院スタッフ・地域支援者と連携し、精神障害者の地域移行のための体制作りを支援すると共に、病院と地域をつなぐ橋渡しを行い、相互の理解を深め、広域にわたるネットワークの強化を図ることを目的としています。

地域移行コーディネーターの業務としては、以下のものがあります。

- ① 病棟からすれば退院可能だが、退院意欲がまだない、または上手く表現できない方たちへのアプローチ（ピアサポート活動の活用等）
- ② 病院職員との連携（学習会、勉強会、事例検討会など）
- ③ 病院と地域とのネットワーク構築
- ④ 退院を迷っている方、どうしていいかわからない方たちへのアプローチ（個別相談）
- ⑤ 相談支援事業所や市区町村へのバックアップ等々

上記の業務を6事業所が都内協力病院64病院を分担することになります。昨年度までと違

い受託事業所が半分に減ったことで、広域にわたってコーディネーターが訪問する病院が増えることになりました。野の花では、昨年の担当4病院（陽和病院・慈雲堂内科病院・大泉病院・長谷川病院）から今年度は11病院（昨年の4病院にプラスして多摩済生病院・松見病院・吉祥寺病院・研精会山田病院・青木病院・武蔵野中央病院・松沢病院）と倍以上に増えました。

半年実施してみたの感想は、医療機関によってこの地域移行促進への取り組みにかなりばらつきがあること、また、受け入れ先の市区町村にも認識にばらつきがあり、社会資源の量がほとんどの地域で足りないと感じています。医療機関に至っては、なかなか外部の事業所の出入りをよしとしないという、まだまだ昔ながらの風潮のある病院が多いことに驚かされました。

また、個別相談で上げてもらったケースの大半が初回入院の方だったことも衝撃を受けました。地域の相談支援事業所に関しては、今年度4月より障害者自立支援法が改正され、地域の相談支援事業所が患者様を迎えに行き、病院スタッフと一緒に退院まで、そしてその後の生活を維持させるように継続的支援をしていくことが出来るようになりました。

しかし、計画相談は行おうが地域移行はまだ難しいなど、事業所によって体制がまだ整わないところが多々あり、実際に事業展開をしている事業所の負担がかなり掛かっていることも事実です。また、受け入れ先の市区町村はもっと広域の病院に自分たちの区民・市民がいることも理解し積極的に動いてほしいものです。今年度の事業を受託した我々地域移行コーディネーターは、退院に向けた動機付け支援を行うの



はもちろんのこと、事業目的にもあるように、医療機関及び地域の関係機関、そして受け入れ先の市区町村と連携をし、地域移行促進のため

の働きかけやマネジメントにもより強く、働きかけていかなければいけないと思っています。

（大竹）

毎年恒例！ 巣立ち工房 夏の陶芸教室



毎年恒例の巣立ち工房の陶芸教室は、今年は8月の毎週土曜日に開きました。合計で25名の方が来て下さり、盛況に終わりました。

準備は6月より開始しました。巣立ち工房メンバーとチラシづくりやポスティングなどを始め、8月の本番を迎えました。当日は陶芸好きのメンバーを中心に3~4名と陶芸の先生でお客様をお待ちしました。

お客様は、ご近所にお住まいの方だけでなく、遠方から来て下さった方も多く、またお母さんやお父さんと一緒に来られるお子様も多く、夏休みの学校の課題として作っていました。

皆様、作りたいもののイメージがあり、とても熱心に作っていました。カップ、小鉢、大皿、動物の置物（カエルや猫、豚、フクロウまで！）など、多彩でした。お子様は独創的でカップにハート型がついたり、陶芸が好きな方は形に凝った小鉢を作ったりと自分の作品を作っていました。

作り終えたお客様からは、「難しかったです、形が出来てくると楽しかったです。土をこねながらどんなものを作ろうか考えてみると、けっこう作りたいものがでてきて、何を作ろうか悩みました。また来年もやりたいと思いました。」

「初めての体験でしたが、子供と一緒にとても楽しく作ることが出来ました。焼きあがるのが楽しみです。」

「毎回、初心者に分かりやすい親切な指導とサポートをありがとうございます。とても落ち着いた静かな工房で、土と向き合う時間、指先の

細かい動きを楽しむ時間にホッとしております。」などと感想を頂きました。

約2週間後、陶器は焼き上がり、丹精込めて出来上がったご自身の作品を手に、見入ったり、摩ったり嬉しそうにされていました。

また来年も、たくさんの方々と表情豊かな陶器と出会えることを楽しみにしています。

（波佐）



<作品作りに熱中>



<皆さんの作品>



三鷹市精神障がい者地域自立支援事業

巢立ち会のピアカウンセラー活動については、三鷹市からの委託事業として、三鷹市精神障がい者地域自立支援事業（略称ピアサポート事業）を進めています。本事業の中では、こころの病を持ちながら地域で生活している方々を対象として、仲間づくりや仲間とともに学習する機会を作っています。

本事業の中で、平成22年の8月より、ピアカウンセラー活動が始まりました。「三鷹市障がい者地域自立支援センターゆー・あい」さんにピアカウンセラーの活動場所を提供していただき、毎週火曜日13:30～15:30までの2時間からスタートしましたが、平成24年度からはさらに金曜日の13:30～15:30の2時間も増やしていただき、ピアカウンセラーも5名に増えて活動することになりました。

こころの病を経験された方々が、ピアカウンセラーとなって、同じこころの病を経験している方々の話相手になったり、時に

は面接室を利用して、1対1で面接をしたり、電話相談を受けています。また、相談がないときは、オープンスペースで利用者の方々と雑談をしたり、ゲームをやったりして、利用者寄りそっています。火曜日の2時間の業務が終わったところで、その日に入っていない他のピアカウンセラーにも集まっていただき、ミーティングを行い、業務の振り返りを行っています。全国津々浦々、こころの病を経験した当事者の方々が色々な形で活躍してきているようです。



（左上から、鈴木氏、五味氏、大関氏、下村氏、高麗氏）

三鷹市でも今後も色々な所で、活躍できる場面を作っていきたいと思います。

最後に、三鷹で活躍している5名のピアカウンセラーからの手記を載せてありますので、ご覧ください。（小林）

○ 電話相談で一度もお会いしたことのない人とお話する時は、とても緊張します。ピアカウンセラーの仕事始めて、面接や電話相談がないときに、利用者の方々とトランプでゲームをやる時間がありますが、トランプの神経衰弱が好きになりました。

（高麗江津子）

○ 研修中から「ピアカウンセラー」とは、相談者の話しや思い・考えを傾聴する者だと教えられました。当初は、カウンセラーなのに聞くだけで良いのか？アドバイスや指摘などをしなくても良いのか？という疑問を感じました。

実際にカウンセラーとして活動を始めて良く分かったのは相談者の方は、個別相談でも電話相談でも話すことが出来る、その時点でご自分の考えや思いがまとまり

つつある、そのタイミングで私達に相談をされるのだと感じます。

その時ピアカウンセラーは、思いや考えをまとめるために傾聴し、相談者ご自身のお手伝いをする。これが、ピアカウンセラーなのだ気づくことができました。

電話相談で、お話しの方が「次回は直接会って話を」と言って頂き、会いにきてくださった事もあります。そんな時に、私はピアカウンセラーになれてよかったと感じて

ます。今後も、多くの方の話を傾聴していきたいと思います。
（五味大輔）

○ 今年、3月にピアカウンセラー養成講座が開催され、あらたに3人の仲間が増え、総勢5人の部隊になりました。とにかく仲間が増えたことがうれしいです。ピアカウンセラーとは一体何者なの？と、世間での認知度はまだ低く、5人プラススタッフの小林で力を合わせて、普及していくことがこれからの私たちに課せられた使命だと思っています。5人5様の個性があり、頼もしい仲間たちです。ぜひ皆さんに応援して頂けたらと思っています。
（下村明子）

○ ピアカウンセラーの仕事は利用者とスタッフのかけはしとしての位置づけが重要だと思います。その為には、利用者と同じような感じ方をし、安心して話せる、仲間としての立ち位置にいる事が大切だと考えています。
オープンスペースでの話し相手やゲームの相手をしながら、心配事や悩みを感じ取り、その整理のお手伝いをし、少し込み入った事

や、人前で話しにくい事は、面接室を利用して30分以内でお話をうかがうようにしています。

お話をうかがう中で、本人が自ら気づき、整理できるように積極的傾聴を心がけています。又、電話相談も1回30分以内で受けています。電話相談のときは、ゆったりとした感じでの対応を心がけています。6月から3名の仲間がピアカウンセラーとして、デビューし、心強くなりました。

また、僕達が燃え尽きないように、勉強会も定期的に行うようになり、安定したピアサポートの基礎が出来つつあります。これからも色々と学びながら、利用者の気持ちに寄り添って活動していきたいと思っています。

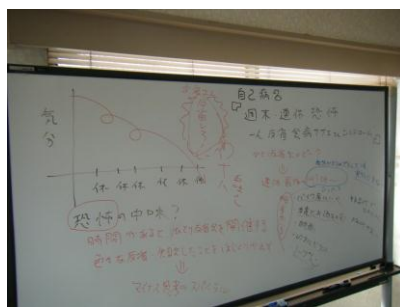
（鈴木俊夫）

○ 決して安易な気持ちで引き受けたわけではありませんが、想像を絶する大変さに四苦八苦しています。
（大関尚人）



当事者研究ミーティングが始まりました

「当事者研究」について、皆様はお聞きになったことがあるでしょうか？2001年頃から北海道浦河にある社会福祉法人浦河べてるで生まれました。最近では、札幌、仙台、千葉、横浜、群馬などで当事者研究的なアプローチが色々なところで取り組ま



（みんなでホワイトボードを囲って行います）

れています。平成23年度の三鷹市精神障がい者地域自立支援事業（略称ピアサポート事業）でも、向谷地宣明氏をお招きして講演会を開催しました。

平成24年度から、ピアサポート事業でも、当事者研究的なアプローチに取り組み

たいと思い、数名のメンバーと担当職員とで4月～5月まで勉強会を行い、当事者研究の進め方などを一緒に学びました。

平成24年度の6月より、毎週水曜日の午後2時～4時まで、当事者研究ミーティングを始めました。「自分自身で、ともに」、「弱さの情報公開」、「苦勞の主人公になる」などを大切な

コンセプトとして、あーでもない、こーでもないと、みんなでワイワイガヤガヤ進めていきます。

三鷹市では、まだ当事者研究が始まったばかりなので、これからも色々みんなで一緒に学びながら進めていきたいと思えます。皆様ふるってご参加ください。（小林）

グループホーム：コーポもくれん 完成！

巣立ち会は通所事業と共に、居住支援に力を入れてきました。大家さんや近隣の皆さんの協力のもと、多くの方に住居提供を行うことができています。93年のグループホーム開設から、今では多くの居室をお借りし、事業を運営しています。

そんな中で、巣立ち風の大家さんからお話をいただき、新たにアパートを新築することとなり、グループホームとしてお借りすることとなりました。すでに1棟のアパートの大家さんでもあり、日ごろからメンバーと親しみをもって接して下さっています。生活するうえで困ったことなど、親身になって話を聞いてくださる



場面もあり、大変お世話になっています。

アパート名は「コーポもくれん」。

平成23年の着工から、平成24年3月に完成しました。

平成24年4月からグループホーム（巣立ちホーム三鷹第2）として事業を運営しています。巣立ちホーム三鷹第2は居室数が多く、皆で協力して生活しています。夕食会は巣立ち風の食堂を借りて会食を行っています。

9月現在では4名の方が入居しており、入居希望者がいらっしゃる状況です。落ち着いた外装で、居室内は広々としてゆったりとした印象です。（森島）

編集後記

ロンドン五輪、日本選手の活躍は圧巻だった。なでしこサッカー、男子水泳メドレーリレー、卓球女子団体は印象深く、チームワークと相互の思いやり、そして不断の努力の大切さを改めて教えてくれた。ありがとう！（小島）

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
定価 50円
編集：社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014 東京都三鷹市野崎 2-6-42
TEL 0422-34-2761
<http://sudachikai.eco.to/>
sudachi-kaze@sudachikai.eco.to